

埼玉郡之四 越ヶ谷領

○花田村 花田村は家数四十八、東は増林村、南は小林村、西は越ヶ谷宿、北は大沢村なり、東西十五町、南北二十町許、当所も古より御料所なり、江戸への里数、元禄の検地等、前(大沢村)に同じ、古へ小林村の界に元荒川続の川ありしが、(花田村は)寛延三年(一七五〇)新開の地となりてより、塩谷八太夫、岩松直右衛門等糺す(改め直す)、高札場 村の南にあり

稻荷社 村の鎮守とす、西円寺持、下(第六天社) 同じ、○第六天社

西円寺 新義真言宗、瓦曾根村照蓮院末、開山を蓮花房長音と云、本尊正観音を安ず、薬師堂

※花田村の鎮守の稻荷社は、山本泰秀氏による聞き取り(昭和22年生まれ、松沢憲一氏)によれば、花田第二樋門の真東、約百三十坪先の少し南の地点、花田3丁目11にあった。また、

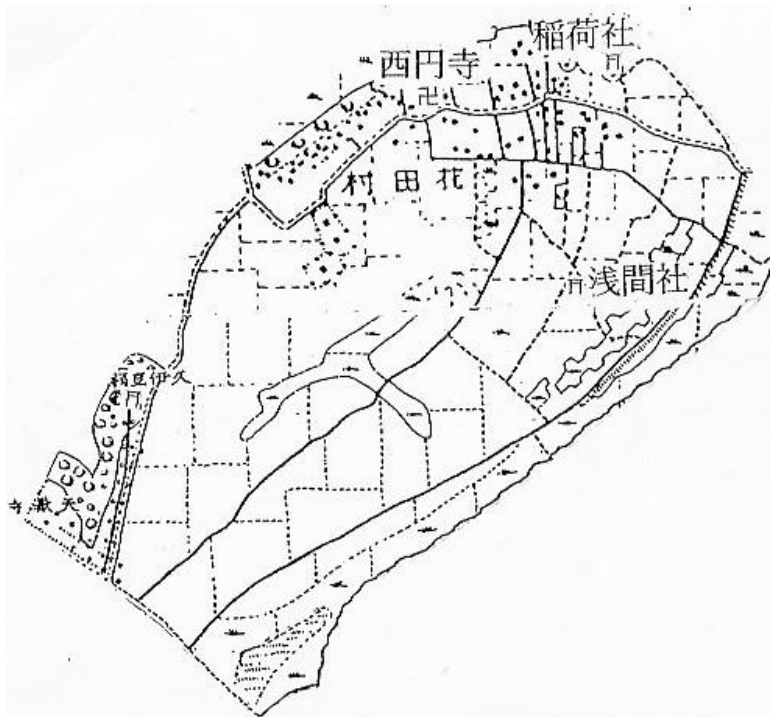
第六天社は、その稻荷社の東に離れてあった(昭和17年生まれ、黒田丈夫氏)。

※西円寺は花田一丁目自治会館そばにある。西円寺の境内には、入口入って右側に参道に向けて立派な稻荷社が建っているが、これが移転してきた花田村の鎮守・稻荷社である。

※西円寺の薬師堂は、入口入って左側に参道に向けて建っている。堂内を開けるのは良くないと伝わってきている。

※なお、花田には浅間社もみられたが、山本氏による聞き取り(松沢憲一氏)によると、花田の南の端、花田と越ヶ谷の境の田んぼの中にあったという。花田苑の門から真西、約三百坪先の少し北の地点、花田5丁目14にあった。

花田の寺社の地図



明治13年測量の迅速測図に寺社の記号と名称の文字をわかりやすく書き換えた。
加藤幸一

埼玉郡之八 新方領

○小林村 小林村は江戸の行程検地など前村（大房村）に同じ、東西南北共四町、南は元荒川を隔て瓦曾根村・西方村、西は火災用水堀を越て越ヶ谷宿及び花田村、東は増林村、北も花田村なり、民戸百七軒、按 岩松文書文永三年（一二六六）の者に、小林村の名をの（載）す、当村の事ならんか、されど郡内菖蒲領及荏原郡にも此名あれば、定かには云難し、用水は瓦曾根村より引来れり、古より御料所なり、其余花田村境に新田※あり、寛延三年（一七五〇）塩谷八太夫・岩松直右衛門検地せり、

※元荒川の古川の地の村境が新田となっている。

高札場 中程にあり

小名 根郷組 野中組 高曾根組

元荒川 南の方を流る、幅二十間許、

神明社 村の鎮守なり、○水神社 村民の持

※神明社は東福寺の北隣にある。明治になると平社に格下げされたようだ。

※水神社は、小林村の瓦曾根溜井沿いの会田家の南西の瓦曾根溜井の小島に祀られていた。

東福寺 新義真言宗、瓦曾根村照蓮院末（末寺）、小林山と号す、中興僧快春延宝七年（一六七九）

正月化す（没する）、本尊虚空蔵、鐘楼 寛政三年（一七九一）の鐘をかく（掛く）、

薬師堂 ○蓮乗院 同宗同末（東福寺末寺）、下並に同じ（以下にあげる東光寺・観音寺も

同じ）、摩尼山と号す、本村地蔵を安ず（安置する）、○東光院 薬王山と号す、本尊薬師、

○観音寺 無量山と号す、本尊十一面観音を安ず、香取社 ○観音堂 東福寺の持、

※薬師堂は、東福寺の境内地の参道東側沿いにある。

※東光院は、東越谷三丁目の北西角あたりにあった。

※観音寺は、香取神社本殿の北東、東越谷一丁目一四にあった。ここに観音堂があった。

※香取社 明治になると、小林村の村社（江戸時代の鎮守にあたる）となる。現在、地元では、

「東越谷の総鎮守」と称している。

※東福寺の本堂の北東裏に第六天のお堂が小山の上にあった。

○増森村

増森村は江戸への里数七里、民戸百三十、西は増林村、南は元荒川を隔て、東方村

に接し、東北は古利根川を廻らし、川を越て葛飾郡川藤下・赤岩二村なり、東西六町、南北十五

町、用水は増林村より引けり、御入国以来御料所（幕府の直轄領）にして、検地は前村（小林村）

と同じく、元禄八年（一六九五）酒井河内守糺せり（改め直す）、

高札場 北の方にあり

小名 西川組 新田組

古利根川 東北を流る、幅十四間許、○元荒川 西の方を流る、幅廿五間、○千間堀 村の中程を流る、岩槻領諸村の悪水落にて、末は古利根川に入、

香取社 東正寺持 ○水神社 金蔵院持、以上二社村の鎮守なり、○辨天社 真正寺持

○第六天社 清学院持 ○稲荷社四宇 一は東正寺、一は観音寺、外二社は清学院の持なり、

※香取社は、武蔵国埼玉郡村誌によると、「村の西方字二枚口にあり」と記述されている。

明治になると平社になる。宝正院の西三六〇坪地点の道路の北側に最近までその名残があったが、現在は見当たらない。

※東正寺は、明治四十四年に増林の下組にある宝蔵院を合わせて、宝蔵院の「宝」と東正院の「東」をとって現在名の宝正院に改めた。

※水神社は、現在の増森神社。明治になると村社になる。江戸時代の鎮守にあたる。

※辨天社は、真正寺の東隣にあった。

※真正寺は、現在の増森新田センターにあった。

※第六天は、増森の松井家の北にある道路を越えたあたりにあった。

※清学院は、増森の松井家にあった。

※観音寺は、宝正院の北東にある。

※稲荷社は、現在の宝正院境内、観音寺の境内、真正寺の東側(現在もあり)、清学院の敷地内にあった。

東正寺 新義真言宗、下総国清水村金乗院末、清滝山不動院と号す、本尊胎蔵界大日を安ず(安

置する)、坐像にて長一尺余、運慶の作と云、天文二十一年(二五五二)の起立にして、開山賢永

天正四年(一五七六)八月四日遷化せり、鐘楼 鐘は近年の鑄造なり、不動堂 天神社、

清滝社 ○観音寺 同宗同末、歴却山と号す、大永三年(一五二三)尊賢と云僧の起立、本尊

阿弥陀を安ず、観音堂 ○金蔵院 東正寺門徒、下二ヶ寺同じ、元和元年(一六一五)僧良識

の草創なり、本尊十一面観音は良弁の作と云、立像にて長一尺三寸余、不動堂 ○真正寺同

(東正寺)門徒、慈光山と号す、寛永六年(一六二九)僧尊海の起立、本尊十一面観音を安ぜり、

○真光寺 寛永七年(一六三〇)僧賢明の草創なり、本尊阿弥陀、○清学院 本山派修験

葛飾郡幸手不動院配下なり、本尊不動、○慈光庵 薬師を安ず、真□正寺(真正寺)持、

○東光庵 こゝも薬師を安ず、東正寺持、

※金乗院は、野田市の清水公園のそばにある寺院、清水公園は昔は金乗院の寺領であった。

※真正寺は、現在の増森新田センターの地にあった。

※真光寺は、森西川自治会館の南側の墓地あたりにあった。

※清学院は、増森の松井家にあった。

○中島村 中島村は江戸より校庭六里半、民戸三十余、東北は古利根川を越て葛飾郡吉川村、

西は本郡増森村、南は元荒川を隔て南百・見田方・東方の三村なり、東西六町余、南北五町、元は隣村増森村より分れし由、既に正保国図此名を載せたれば、分村せしは是より前の事なるべし、されど増森村には此伝なし、分村以来御料所にて今も替らず、用水検地は前村(増森村)と同じ、又増森・増林二村の内に少許の飛地あり、

小名 稲荷免耕地

元荒川 南の方を流る、幅二十五間、○古利根川 東北を流る、幅四十間ばかり、前の元荒川村内にて此川に落合りこゝに渡場あり、江戸より下総への往来にて、当村の境より葛飾郡平沼に達せり、

※古利根川(現在は、中川と呼んでいる)の渡場とは、中島と吉川を結ぶ「中島の渡し」を指すと思われる。

稲荷社 村の鎮守 ○諏訪社 これも鎮守なり、共に正福寺の持、

正福寺 新義真言宗、下総国葛飾郡清水村金乗院末、稲荷山と号す、本尊大日を安ず、

※稲荷社と諏訪社は、現在の中島神社をさす。

※正福寺は、中島神社の裏の中島自治会館にあった。

○増林村 増林村は民戸二百四十、東西二十町、南北十三町、南は小林村、東は増森村、西は葛

西用水堀を隔てて大吉村、北は古利根川を越て葛飾郡上下赤岩村なり、用水は松伏溜井より引沃げり、御打入より今に御料所にして、検地江戸への行程等は前村(中島村)と同じ、其余後年開発の地は、享保十六年(一七三一)柴村藤右衛門・伊藤市兵衛、寛延三年(一七五〇)塩谷八太夫・岩松直右衛門、延享三年(一七四六)舟橋安右衛門、宝暦五年(一七五五)小野佐太夫、明和七年(一七七〇)遠藤兵右衛門等検地して、貢税を定めしと云、

高札場 東の方にあり

古利根川 東の方を流る、これ当郡(埼玉郡)と葛飾郡との界にて、此川に葛飾郡松伏・二郷半・東葛西・上の割・下の割・西葛西・幸手領・半高・足立郡淵江・谷古田・及郷中・八条・新方、都合八ヶ村半組合の溜井あり、是を松伏溜井と云、当村と大吉村境にて、一流を分てり、これ

則前の八条・谷古田・淵江・西葛西四ヶ領の用水にて、是を西葛西用水路と唱ふ、猶葛飾郡松伏村溜井の条見合すべし、○元荒川 南を流る、幅二十間余、

浅間社 村の鎮守、福寿院の持、 末社 山王 ○香取社二字 一は宝蔵院、一は村民の持

5

○八幡社 梅光院持 末社 稻荷 ○稻荷社 (梅光院) 持同じ、 ○天神社 二字 一は大正院持、一は村民の持、 ○神明社 大正院持

※浅間社は、現在の護郷神社。大正時代以後に村社になる。

※宝蔵院持ちの香取社は、下組農村センターそばにある。明治になって増林村の村社になる。

※村民持ちの香取社は、古利根川沿いに八幡社と並んで八幡社の西隣りにあった。

※八幡社は、上組一区自治会館の東百八十段先の古利根川沿いにあった。

※梅光院は、新方川に架かる宮野橋の上流百三十段上流の左岸側にあった。

※稻荷社は、現在の城之上橋の南方にある城の上の神社である。「○稻荷社 持同じ、」となっていて、どこの寺院(梅光院)の持ち分か抜けている。「○稻荷社 梅光院持同じ」である。

※天神社は、中山中自治会館そばにある。

※大正院は、中山中自治会館の東側にあった。

※神明社は、ふれあい橋の南西にある。

林泉寺 浄土宗、江戸芝増上寺末、正林山と号す、開山本誉文正元年(一四六六)三月示寂す、

本尊は三尊の弥陀、此腹籠に恵心僧都の作れる弥陀を収むと云、鐘楼 享保三年(二七一八)

铸造の鐘を掛 観音堂 正観音及子安観音の二体を安ず、○勝林寺 禅宗曹洞派、下新井村

福蔵寺の末 法恩山と号せり、開山黙堂闇契は天文七年(一五三八)四月寂す、十一面観音を

本尊となせり、鐘楼 近き铸造の鐘なり、観音堂 ○福寿院 新義真言宗、瓦曽根村照蓮院末

富井山と号す 本尊は正観音を安ぜり(安置する) 開山長清寛文三年(一六六三)正月廿九日

遷化す、 ○宝蔵院 同宗、下総国葛飾郡清水村金乘院末、本尊不動を安ず、開山祐範延宝四

年(一六七六)十一月二日寂せり、 ○法立寺 日蓮宗、下総国平賀村本土寺末、妙富山と号

す、開山日明正保元年(一六四四)十二月十日示寂、本尊三宝(三宝尊)、三十番神堂 ○清伝

寺 林泉寺末なり、真城山と号す、開山証誉寛永十年(一六三三)十月十七日寂す、本尊弥陀

を安ぜり、 ○浄泉院 同(林泉寺)末、本尊も同じ(弥陀)、 ○清了院 勝林寺の末、本尊観音

を安ず、 ○梅光院 本山派修験、葛飾郡幸手不動院の配下、香正山と号す、本尊不動、

○大正院 同(幸手不動院)配下、増林山と号す、本尊も前(不動)に同じ、 ○薬師堂

○虚空蔵堂 ともに福寿院の持

※林泉寺は、林泉寺発行「林泉寺史」59頁によると、鎌倉時代の永仁五年(一二九七)の「平僧寺」から始まる(開創)。その後、「西堂寺」、「上人寺」と変遷し、現在の「林泉寺」の名称に

落ち着く。またこの新編武蔵風土記稿によると、増上寺の末寺である林泉寺の開山僧は、本誉

上人で、室町時代の文正元年(一四六六)三月に遷化したとされている。本誉上人は「林泉寺史」

3頁によると、正式には誓蓮社本誉上人阿正林良諦和尚で「心阿正林良諦」の「正林」は

林泉寺の山号に由来していると思われる。

※腹籠とは、仏像などの胎内に観音像や経典などを納めてあること。また、そのもの。

※林泉寺の観音堂には正観音と子安観音を安置するが、「林泉寺史」(編纂者は林泉寺の木村恵俊氏)の98頁の江戸中期頃の古地図によると、かつては「正観音堂」と「子安観音堂」とが、この頃まで隣り合わせにあったことがわかる。

※勝林寺は、平安時代の万寿二年(一〇二五)三月十日に源勝和尚による「自耕院」(慈恩寺末寺、天台宗)から始まる(開山)という。本尊は正観音。その後、天文元年(一五三二)八月に黙堂闇契もくどうあんけいによって曹洞宗に改宗されて中興開山された。本尊は十一面観音。なおその前年には、岩槻にある福厳寺を開山したという。黙堂闇契もくどうあんけいは天文七年(一五三八)四月十二日の酉の刻(午後六時頃)に示寂している。(以上、山本泰秀氏からの聞き取り)

※福厳寺は岩槻にあって、開山は勝林寺と同じ黙堂闇契もくどうあんけい。

※勝林寺の観音堂は、山門入って右側にあったが、嘉永六年(一八五三)に焼失し、今はない。

※福寿院は、現在の護郷神社もりさとの道路反対側の奥に今でも墓地が残っている。この地が福寿院跡地である。福寿院には他の地にかつては薬師堂を持っていたようだ。また開基は山号と同じ富井家のようなのである。

※宝蔵院は、現在の下組農村センターの東南90メートル先にあった。金乗院こんじょういんについては中島村の正福寺の項を参照のこと。

※法立寺は珍しく日蓮宗の寺院で、かつては宝蔵院の南150メートルの所にあったという。

※清伝寺は、現在の鷹匠橋の北東120メートル先にあった。

※浄泉院は、林泉寺の境内にある。

※清了院は、現在の定使野橋を松伏に向かって渡った先の猿島道の東側にあった。墓地は離れた東北東に現在も残っている。

※梅光院は、現在の定使野橋の下流の新方川の左岸にあった。

※大正院だいしやうは、中山中自治会館の近くにあった。

※ここであげられる薬師堂は、福寿院の持ち分であったようだ。

※虚空蔵堂は、下組農村センターの南西、東京平方線の道路北側にあった。